

## 異論を唱えることが出来る社員を近くに置く

理事長 西河洋一

### 塾生の直面する経営課題と一緒に取り組む

新年を迎え『持続的に成長する豊かな日本づくりに寄与できる技術経営人財を育成する』というテーマに真剣に取り組もうと心新たに誓いました。

『西河技術経営塾』では意見交換や質疑に積極的に参加することに努め、塾生の直面する経営課題と一緒に成って取り組んできました。塾生は各自の抱えているさまざまな経営課題と経営学をリンクさせることで経営者としての基礎知識の習得や創造力、そして判断力を鍛錬し、事業に役立つ経営実践力を確実に身につけています。

### 日常はいかに聞く耳を持つか、多様性を認識し、理解するかが重要となる

社長は、経営の重要な局面で、大きな判断を下さなければなりません。何時も孤独で独善的になりがちです。

社長が決心をしたらいかなる反対意見の中でも皆を納得させ指導して経営上の難問に取り組む必要があります。イノベーションと言われるような経営成果は非常識と言われる経営判断と組織運営から生まれます。従って日常はいかに聞く耳を持つか、多様性を認識理解するかが重要になります。

### 私の方針に異論を唱えることができるような社員をあえて近くに置く

私が知る多くの社長達は自分に従うイエスマンを周りに多く集めようとします。

私は私の方針に異論を唱えることができるような社員をあえて近くに置くことにしています。時には「この野郎」と思うこともありますが、冷静に思い直して自分の考えを修正することもあります。

### 間違いの無い経営をするには、異論を聞いて再考し、決断する

一人で物事を考える範囲や深く考える力には個人の限界があります。間違いの無い経営を実践するには、異論を聞いて再考し、決断することが必要だと思います。

以上